

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902116		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あけぼのⅢ		
所在地	旭川市忠和6条6丁目2番24号 (電話) 0166-60-2020		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	平成19年11月22日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤13人, 非常勤 2人, 常勤換算10.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 16,500円
敷金	有 (円)	無	暖房費(10～4月) 6,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	6 名	要支援2	1 名
年齢	平均 82.2 歳	最低 59 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック、くにもと病院、メイプル病院、ほのぼの歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅街に位置し隣に保育園があり園児の声が常に聞こえ、また近くに商店もあり立地条件に恵まれたグループホームです。近郊からの入居者が多く、利用者も見慣れた風景として安心して暮らしています。利用者は、職員が一人ひとりの思いやペースを尊重したケアサービスのもと、家庭的雰囲気的生活環境の中で明るくゆったりと過ごしています。玄関前のベンチは職員と利用者、または近所の人も加わり談笑するなど自由に過ごせる場となっています。系列が医療機関で、医療のバックアップ体制が整い、介護度の高い利用者も受け入れるなど、家族の安心と信頼に培われて利用者の潤いのある生活が営まれています。職員同士や管理者と職員の関係も良好で、職員は利用者により優しくゆったりと話掛け、親しみやすく温かい雰囲気が保たれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の改善事項については、職員全員で検討され、本部とも協議しながら即改善可能な項目は早急に取り組むなど、積極的な改善への取り組みが行なわれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成に際しては、全職員で取り組みケアの振り返りや見直しを行ない、日々のケアに活かせるよう話し合いがもたれています。今後、自己評価と外部評価での取り組むべき項目も、職員間で十分な実効ある検討を期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度9月に1回目を開催し、町内会長、町内監査役、利用者、利用者家族、管理者、グループホーム職員、病院相談員、本部職員の参加で行なわれています。ホームの概要や運営状況、スライド上映、今後の行事予定などが報告され、地域住民、利用者家族から意見、提案が交わされ、地域の事業所に対する理解と運営に対する協力体制ができています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見、要望を話せるような雰囲気づくりに努めています。また、意見や要望が出た際には、迅速に話し合いケアに反映させています。重要事項説明書に苦情受付窓口の担当者と外部機関を載せ、ホーム内にも明示し、玄関入口には「意見箱」が設置されています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣の保育園や商店の理解を得ながら、温かい支援と協力が築かれています。町内会の行事、またホームでの行事などの交流の中で利用者の暮らしがより豊かなものとなるよう期待します。また、災害時は、地域住民の参加、協力を得ることが不可欠であるため、今後、交流が盛んになるよう積極的な働き掛けを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域により密着したホームを目指して開設されたホームで、地域性を活かし安心した生活を支えるための事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念が掲示され、また職員証にも明示されており、常に理念を念頭においた日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、日常の声掛けや挨拶、地域の諸行事に参加し、広報誌を地域に回覧するなどホームの存在や役割が理解されるよう努めているが、近隣住民との密なる交流が図られるまでには至っていない。	○	隣の保育園や商店との交流は親密に行なわれているが、さらに地域でホームの存在や役割が理解され、交流が盛んになるよう、積極的な働き掛けを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題は全職員で話し合いがもたれ、改善に向けた積極的な取り組みが行なわれている。また、今回の自己評価も全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しを行ない、日々のケアに活かせるよう話し合いがもたれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成19年9月に第1回目の開催が行なわれ、ホームの概要や運営状況、スライド上映（ホーム内の日常の様子）、今後の行事予定などが報告され、地域住民、家族から意見、提案等が交わされている。	○	今回のサービス評価の結果も議題に含め参加者からの意見、要望を聞き、サービス向上に活かされるよう期待する。また、利用者家族に会議参加の積極的な呼び掛けを行なうことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会や会議に参加し、ホームとしての係わりや疑問点についての相談は行なっているが、行政との連携は十分とは言えない。	○	運営や現場の実情等を積極的に伝えたり、市から情報を提供してもらうなど、市の担当者と意見交換を頻繁に行ない、協力関係を築かれることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月報告している金銭出納帳、領収書とともに担当職員より利用者の暮らしぶりを報告する手紙が家族に送られている。また、3カ月に1回「百日草だより」を発行し、日々の様子や行事の写真など、利用者の様子を家族に知らせている。受診後の病状や変化についてはその都度報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見、要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。玄関入口には「意見箱」が設置されているが投書はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を個々に合わせて説明方法を工夫するなど、利用者の精神的負担の軽減に努め、家族への報告は毎月の手紙で行なわれている。しかし、ゆとりあるケアについては人手不足が感じられる。	○	利用者の安心とゆとりある生活を支え、利用者、家族、職員の不安緩和や事故防止の観点から、人員の増員が望まれる。

旭川市 グループホーム あけぼのⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は人材育成の重要性を認識しており、研修参加費用等を事業所負担とし、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加している。また、同系列のホーム間では教育委員会の発足もあり、計画的に内部研修や報告会が行なえるよう検討されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら情報収集や意見交換を行なっている。同一法人の事業所との交流は盛んに行なわれているが、近隣またはほかのグループホームとの直接的な交流は行なわれていない。	○	ホーム全体で話し合い、重要性を把握した上で同一法人のグループホームだけでなくほかの同業者との交流を図る機会を設けることが望まる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者、家族等と十分に面談を行ない、見学して頂いた後入居している。入居始めの期間は本人がすぐにホームに慣れない場合は、家族に来所して頂くなど、信頼関係を築きながら、利用者及び家族が安心、納得できるよう適切なサービス開始の調整がされている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意なことを見極め、声掛けを行ない場面づくりの支援が行なわれている。また、利用者の経験から料理の味付け、調理方法、漬物作りなど利用者から教えてもらうこともあり、ともに支え合う関係づくりが構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当職員を決め、利用者の状態、要望を細部にわたり把握している。また、言葉だけではなく、表情からも利用者の思いを汲み取るよう努めている。家族から情報収集を行ない利用者本位の生活となるよう検討し日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の記録をもとにカンファレンスを行ない、状況把握に職員が全員で係わり、課題の把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。家族の要望を取り入れ、職員が意見を出し合いながら介護計画が作成されている。記録用の書式を改良しより使いやすくし、質の向上に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行ない、利用者の状態変化や必要に応じて本人・家族と話し合い、医療機関とも相談しながら現状に即した見直しを行なっている。作成された計画書は家族に確認後、同意をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の送迎や外出時の付き添いなど、柔軟な支援が実践されている。また、医療連携加算の指定を受け、24時間安心できる体制を整備している。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関への通院に付き添ったり、協力医療機関による往診が受けられるなど、適切な受診支援が行なわれている。また医療連携により看護師の健康管理も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係医療機関と十分に連携を行ない、終末期対応についての整備が行なわれている。重要事項説明書に重度化や終末期に向けた指針や同意書が整備され家族と方針が共有できる体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの性格を把握し、入室時の声掛けや自尊心を傷つけないようさりげない対応に心掛けている。しかし、面会簿の記入や広報の掲載写真の同意が得られていない。	○	広報の掲載写真使用目的の説明や、公開の同意が得られるように、本人や家族に了解を求める事が望まれる。また、ほかの人に名前や住所をみられないように、面会名簿の記入を工夫されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に対するケアサービスはホーム側の都合に合わせるのではなく、利用者の生活歴や体調やペースを大切に、その人らしい生活を送れるよう支援している。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には、職員が同席して同じ食事を取りながら和やかに食事ができるよう支援している。後片付けも利用者の力に応じて一緒に行なわれている。利用者の希望や季節感のある食材を用いた献立が作られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっており、交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、一人ひとりの状況に合わせた対応も常時されている。夜間入浴も可能な体制になっているが、現在希望する利用者はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援しており、外食、ドライブ、将棋、飲酒など習慣、気晴らしなどの日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるよう支援が行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブ、通院への付き添いなど、利用者一人ひとりの希望に応じた対応が行なわれている。介護度の高い利用者が多く、外出行事は年4回程度となっている。	○	介護度の高い利用者も短時間ではあるが戸外に出る機会を設けている。しかし、外出機会が少ないと感じている家族もいるため、家族の声に耳を傾けながら利用者が戸外で気持ちよく過ごせるような取り組みを期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声掛けや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルの整備は行なわれている。しかし、消防を交えての避難訓練や町内会や地域住民への働き掛けは行なわれておらず、協力体制を築くまでには至っていない。	○	利用者の安全をより確実のものとするためにも、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練の実施や災害時に備えた物品の準備をすることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され職員が情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。利用者の中には 介護度の高いの方も居住され、不安なく生活されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節を感じることでできる飾り付けが行なわれ、清潔でゆったりしており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。気になる臭いもなく、音、光等も適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具、仏壇、写真などが持ち込まれており、利用者が安心して過ごせる空間となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。